木下藤吉郎・羽柴秀吉・豊臣秀吉を知らないなんて？

情報工学科　河田　進

私は乱読で子供の頃から沢山本を読んでいました。寝るときは枕元に電気スタンドと一冊の本を置き,読んでいるうちにいつの間にか寝ているというのが習慣になっていました。おもしろくて止められず，気がつくと夜中の 2 時 3 時はしょっちゅうでした（学校での居眠りもしょっちゅう（笑））。

中学生のときは自分から進んで図書委員になっていました。私の中学校には図書室があったのですが，週に数回貸し出し処理を放課後行い，委員はそれを手伝います。委員は図書の整理や清掃なども行うので鍵を普段持たせてもらえたのです。私のねらいはこれでした。昼食が済むとこっそり図書室へ入り込み，誰もいない静かな部屋で読書を満喫していました。また，図書委員は新規に購入する本を推薦することもできました。当時私は SF にはまりかけていました（ただ，SF という言葉は知りませんでした）。宇宙を舞台にしたジュナイブルものが多かったのですが，図書室にあるものは数冊で，あっという間に読んでしまいました。そこで委員会で提案したのですが, SF という言葉が分からないので,「宇宙関係の本」という表現をしました。すると銀河系や太陽系の構造，天体観測の方法などの本がどっさり。これらも嫌いではないのですが，ガッカリしたことを憶えています。

ところで，記憶している中で最初に夢中になった種類が偉人伝です。小学生向けに書かれている本でしたから，単純で分かりやすく悪い印象を与えることなく，読み終わる頃にはその人に憧れるようになりました（今考えると本当に単純な自分）。中でも印象的なのはやはり，織田信長，豊臣秀吉，徳川家康の 3 人です。今はちょうど NHK の大河ドラマで取り上げられている坂本龍馬に興味を覚える人が多いと思いますが，色々な意味で奇想天外な人生を送った 3 人の方に私は強い興味を覚えます。特に豊臣秀吉はジャパニーズドリームの体現者ですから，映画やドラマでも度々題材になっており，日本人で知らない人は居ないと思っていました。ところが，現役の大学生と話をしていたとき，たまたま「木下藤吉郎」という名を口にしたところ,「それ誰ですか？」というので,「豊臣秀吉のことですよ」と答えました。すると「えー？豊臣秀吉？あー，歴史で習ったな...」という返事。私は口が開いたまま絶句！聞くと，小説のたぐいは殆ど読まないとのこと。学校で習う歴史も暗記科目で習った以上のことに興味を覚えないとのこと。

これで良いのでしょうか？学校で習う歴史はあくまでもさわりです。そこに登場した人物や事件，背景，作品，風習などを詳しく知らなければ歴史を勉強したとは言えないでしょう。歴史は，知識ということではなく，我々の行動規範の手がかりを教えてくれる存在ですし，人生を豊かにしてくれるはずです。本を読まない方，一考して下さい。